



中・東部農村部の典型的な農家の庭先。マトケ（食用バナナ）とコーヒーの混作。



マトケの単作。手入れが行き届いており、作付け面積も大きい。カンバラから業者が直接買い付けに来る。



先進的農家の敷地内。屋根から雨水を集め、貯水するタンクがある。また、後方には伝統的な円筒形穀物倉、更に後方には乾燥穀物倉が見える。



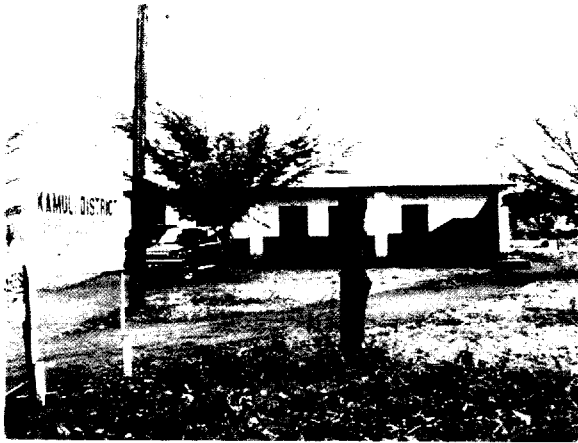
伝統的な穀物倉。近年はあまり見られなくなった。ここではミレットを保管していた。5か月間の貯蔵が可能だという。



庭先の家庭菜園。圃場ではマトケ、コーヒー等の販売用作物の生産をし、ここでは別途自家消費用に野菜等を生産している。



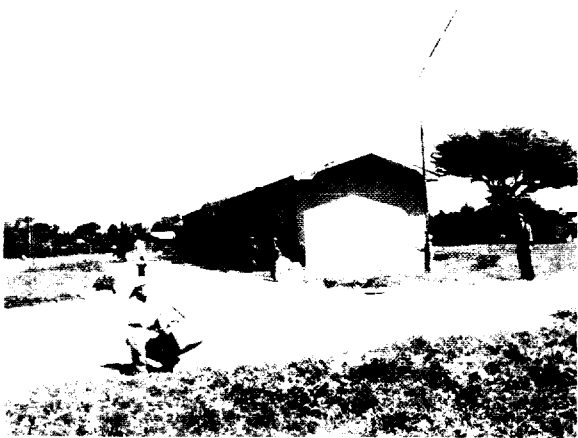
地方都市のコーヒー精製業者の敷地。奥では精製前の、手前では精製後のコーヒーを乾燥している。



5,000農家の会員を擁するカムリディストリクトの農民団体事務所。



農民団体の敷地内では、会員に配布するためのコーヒー、柑橘類などの苗木が栽培されている。



ドホ灌漑システムの事務所。舗装道路上ではコメを乾燥していた。



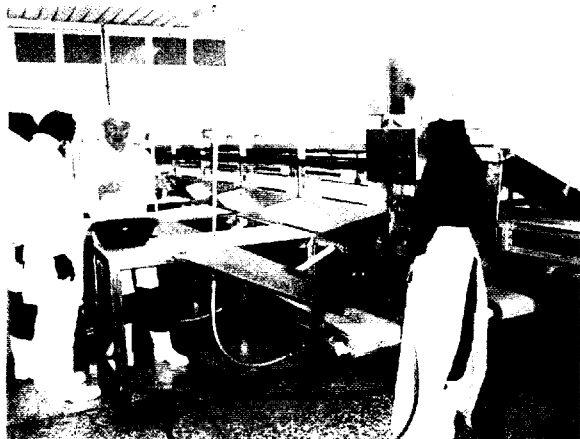
小規模稲作農家の日除け。収穫の最中で、昼食の炊事、休憩もここで行う。湿地のため、オフシーズンでも水は豊富だが、水管理はできない。



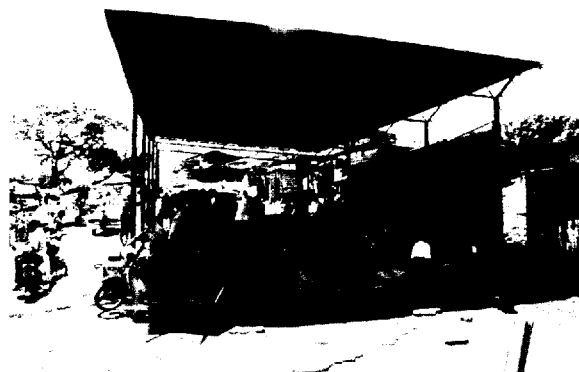
収穫されたコメ。収奪を最小限にするため、穂先のみ刈り取っている。手で揉んで脱穀する。自宅で乾燥後、自転車で最寄りの精米所へ運ぶ。



マユゲディストリクトでは比較的大きい漁港、ルワニカ。何の施設もなく、ボートは小型。出漁前の網の手入れをしている。



ジンジャのナイルパーチ加工工場。元は国営だったが、現在はインド人が経営している。ほとんどが欧州輸出である。工場内は清潔・合理的である。



ジンジャディストリクト最大の漁港、マセセの魚市場。屋下がり活気はないが、朝、夕の陸揚げ時は多くの人でにぎわうという。



地方部の幹線道路沿いの青空市場。種々の野菜が並べられている。情報にも恵まれ、カンバラと大差ない値段で売られている。



イガンガの市場で売られている燻製ティラピア。ナイルパーチはほとんどが輸出されてしまうため、国民の食卓にのるのはティラピアが主である。



#### オウィノマーケット

カンバラ市の中心となっているマーケットで、卸売機能を持った商店も多い。食品のみならず、電気器具、衣類、かばん、靴など生活物資全体の総合市場となっている。



#### カレルウェマーケット

カンバラから北へ向かう道路沿いの民有地に発達したマーケットで、施設は少ない。道路の境界部分に深い溝があり、そこに野菜を流し、廃棄などしている。



マトケバナナを運ぶ自転車買い付け業者

主要道路から遠く離れた地域へも自転車を使って集荷に出かけていく。一台の自転車に4～5房、重量約80kgのバナナを積んで主要道路の集荷場まで運び出してくる。



マトケバナナを運ぶトラック

トラックの枠のみならず荷台の下の車輪の泥除けの後ろにもバナナをくくりつけて運ぶ。荷台の上に人が乗っているため荷台の下のものは傷みやすい。



メイズの製粉所

オウイノマーケットに隣接する地域にはこのように小規模な製粉所が数多く稼働している。卸売業者などから定期的に注文を受けて製粉する企業と、市場の需要に反応して出荷する企業が存在する。



ビーンズの道路脇での販売（マサカディストリクト）

缶に入れて展示し、客が現れると木陰から店員が現れ、ビニール袋に詰め替えてくれる。主にカンバラに戻る個人の乗用車を対象に販売している。



道路沿いの野菜マーケット（マサカディストリクト）

朝早くから農作物を販売している。調査に訪れた時期は野菜の生産がピークであり、数多くの店が商品を並べて営業していた。

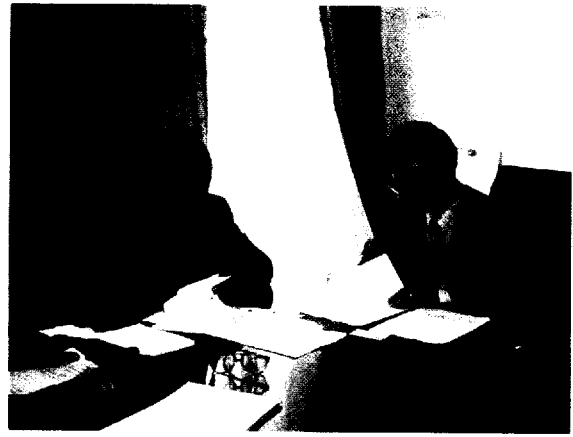


道路沿いの野菜マーケット（ムベンディストリクト）

主要道路沿いには周辺で生産された農作物を販売する店舗が営業している。ここで営業する小売商は、朝早く周辺の農家に出かけて作物を買い付けて運んでくる。



農業・畜産・水産省（MAAIF）との協議の様子



S/W、M/Mの署名